

## 目次

はじめに	3
1 民族と宗教	
2 宗教と経済成長	
＜キリスト教文化と経済＞	
第1部 キリスト教と経済国家・イギリスの形成	
第1章 自我の独立と資本主義	5
1, 血縁社会から離脱	
2, 宗教革命と独立した自由な個人	
3, 勤勉・節約の精神の普及	
4, 自由な個人と「神の見えざる手」の作用	
5, 国債発行権と強兵	
第2章 イギリス経済の世界支配	12
1, アジア文明品の模倣・茶	
2, 綿織物の模倣から収奪へ	
3, 奴隷の利用	
4, 茶とアヘンと砲艦外交	
5, 経済の成熟・産業から金融国家へ	
第2部 アメリカ経済の覇権と混乱	
第1章 清教徒の国家	18
1, 神が与えた国・新大陸	
2, ヨーロッパ文明の移植	
3, 「丘の上にある町」というアイデンティティー	
4, 神が導いた帝国主義	
5, キリスト教の反省・原理主義	
第2章 自由主義経済から混合経済へ	24
1, プロテスタント大統領と経済対策のすれ違い	
2, 政府主導の混合経済へ	

3, 思想統制と「赤狩り」	
第3章 厳しい覇権への道	28
1, 共産主義ドミノの防止	
2, 自由主義の復活とグローバリゼーション戦略	
3, 世界の銀行になったアメリカ	
第4章 高度な金融工学が生んだ危機	32
1, 積み木細工の金融ピラミッド	
2, ピラミッド崩壊と国家的規模の粉飾	
3, ヘッジファンドの暴力	
4, 秩序ある社会の形成へ	
5, 福音派と社会福祉派の深い溝	
第5章 多民族国家の発展性	38
1, 強い大学・自由と移民の支え	
2, 人種のるつぼから色つき人種サラダへ	
3, 文化共存の可能性	
＜儒教と経済＞	
第1部 中国思想と混合民族	
第1章 中国思想の核心	42
1, 長い歴史の国家	
2, 政治哲学の儒教	
3, 実存哲学の老荘道教	
4, 庶民的な大乘仏教	
5, 皇帝と「三教合一」	
第2章 王朝の変遷と儒教	48
1, 国境のない文化概念としての国家	
2, 新中国の宋と儒教の隆盛	
3, 漢族文化のモンゴル化	
4, 経済の自立的成長・明	
5, 清の経済繁栄と皇帝統治のシステム	
6, 人口爆発と社会秩序の崩壊	
7, 儒教の危機と中体西洋論	

- 8, 中国を2000年間支えた文化
- 9, 領域国家から国民国家への転換
- 10, 儒教文化圏からの独立・日本・朝鮮

## 第2部 大国への発射台

### 第1章 反日・親口・三民主義による統一・・・・・・・・・・61

- 1, 民主主義から皇帝国家へ
- 2, 孫文とソ連との結合
- 3, 国民党の活躍
- 4, 伝統的経済システムの強さ
- 5, 反日が生んだ統一のエネルギー

### 第2章 皇帝を否定した皇帝・毛沢東・・・・・・・・・・66

- 1, 平等社会における皇帝
- 2, 宇宙人のような解放軍
- 3, 思想の統一・生産の集団化
- 4, 全国民を管理
- 5, 人民公社の失敗・白猫黒猫論争
- 6, 毛沢東の奪権闘争
- 7, 毛沢東の業績
- 8, 独裁政権への回帰

## 第3部 大国の復活と混乱

### 第1章 混乱と飛躍・・・・・・・・・・74

- 1, 日中国交回復と日本人の錯覚。
- 2, ただ働きの栄光

### 第2章 改革・開放政策の開始・・・・・・・・・・77

- 1, 郷鎮企業・経済特区
- 2, 改革開放に対する抵抗

- 3, 天安門事件
- 4, 官僚による経済成長競争
- 5, 優れた産業政策
- 6, 請負と競争
- 7, 高成長の歪み

つづく